

石狩川流域委員会（第8回） 議事要旨

■日 時：平成30年1月26日（金曜）10:00～12:00

■場 所：北海道開発局研修センター 1階会議室

■出席者：黒木委員長、井上委員、上田委員、片石委員、定池委員、清水委員、平澤委員、山田委員（以上8名）

■議題：石狩川水系空知川河川整備計画〔変更〕原案について

■議事要旨

（1）石狩川水系空知川河川整備計画〔変更〕原案について

・各委員から変更原案に対して反映した方が良い考えや文言など、ご意見を頂戴したい。（委員長）

【主な意見】

・P. 12:「金山ダムで既往最大の流入量を記録し、金山ダム上流域においては、同洪水により発生した流量を安全に流下するための河道断面が不足していることから」とある。P. 35には「戦後最大規模の洪水」とあるが戦後最大規模の洪水はこれからも更新されていく可能性がある。表現として過去と将来が混在した表現となっている。（委員）

→過去と将来がわかる表現に修文する。（事務局）

・平成28年洪水において、金山ダムが流木を捕捉して下流に流さなかったことなど、ダムの効果について記載した方が良い。（委員）

・ダムで流木を捕捉したことは確かだが、極端に多かったという認識はない。書き方は工夫をした方がよい。（委員長）

→金山ダムの流木捕捉に関しては、前半の洪水の概要に簡潔に記載する。（事務局）

・【大臣管理区間】とあるが、流域全体の視点での計画とできないか。また、北海道管理区間に関する記載が少ない。（委員長）

・P. 37:河川空間に関しては、金山ダムの湖面、湖岸利用なども記載した方がよい。（委員長）

・P. 38:復旧箇所では護岸や堤防も強化され破堤の危険性は下がったが、破堤箇所以外の対策についてもわかるような記載にした方がよい。（委員）

→「近年の被災形態を踏まえ」「河岸保護工を実施する」ように修文する。（事務局）

- ・ P. 42 : 氾濫原の土地利用の誘導や、氾濫が旧河道沿いに流下したことを考慮したまちづくりなど、内容に反映されているのか。(委員)

→河川防災ステーション、防災連続盛土の嵩上げ等の位置は、河川整備計画変更後に詳細な検討を行っていく。その際には、平成 28 年 8 月の氾濫形態を踏まえた検討を行うため、その段階で考慮していく。(事務局)
- ・ P. 43 : 河川防災ステーションのイメージ図では堤防に隣接したイメージとなっているが、幾寅地区のイメージに近いものにした方が良い。(委員長)

→まだ正式な場所は検討中であるが、河川に隣接したイメージにはならないため、離れたイメージ図を用意する。(事務局)
- ・ P. 44 : 「情報網等の整備」の項目に「二重化等を図る」とあるが、より踏み込んで強化などの表現を入れてはどうか。P. 53 : 「河川情報の収集・提供」の項目にも、データ取得の強化に関する追記をしてもよいのではないか。(委員)
- ・ P. 46 には「河畔林の保全」という表現があり、P. 55 には「樹木の管理」という表現があるが、関係性はどのようになっているのか。(委員長)
- ・ P. 53 の 11 行目などでは関係機関や住民に情報を提供するとなっており、住民以外の河川空間利用者にも提供するという文言を追加した方が良い(委員)

→ご指摘の通り修文する。(事務局)
- ・ P. 59 : 金山ダム下流を「洪水予報河川」、金山ダム上流を「水位周知河川」としているが、洪水予報河川においても水位等の情報を通知するのであればその旨を記載した方がよい。(委員)

→水位の情報は流れる。誤解のないように修文する。(事務局)
- ・ P. 59 : 14 行目の「流出特性」についての記載は重要ではあるが、このような山地河川の場合、流出特性に応じて水防活動を行うのは難しいのではないか。(委員)

→水位だけでなく、例えば雨などでも判断するというようなことも含んでいたが、主旨が伝わるように修文する。(事務局)
- ・ P. 59, 60 : 「災害履歴」を踏まえたとあるが、今後は履歴のあるところは安全に、無いところは危険なままと捉えられる可能性がある。災害履歴だけではなく、川の特性などを含めた情報提供や啓蒙が必要。(委員)

→災害履歴のほか、河川特性などを含めた内容に修文する。(事務局)

- ・ P. 60: 「都市機能の被害を軽減」とあるが、都市だけでなく流域全体を対象としているという表現に修正した方がよい。(委員・委員長)

- ・ P. 60: 防災教育やほかの場所でも「～を図る」という記載があるが、図った上で刷新される、改善を繰り返す、情報を残すなどの継続性を含めるのがよい。
大雨が起きた地域ではどう対応したかという情報を残し、発信するのは非常に重要。(委員)
→ご指摘の通り、図った先のことも記載する。(事務局)

- ・ P. 61: 「災害履歴」だけではなく、「自然環境や社会環境」も踏まえることが必要。
「幼少期から」では個人を対象とした意味合いとなるが、個人だけではなく組織等も対象としている表現にした方がよい。
「命を守る」とあるが、命を守ることだけではなく、災害に気がつくためには普段の自然の状態との変化に気がつく必要があり、地域の自然との付き合い方を学ぶ中での防災教育という位置付けも入れるとよい。(委員)
→ご指摘の通り修文する。(事務局)

- ・ P. 63: 「都市の発展」とあるが、都市だけでなく流域全体を対象としているという表現に変えた方がよい。
- ・ P. 63: 「農業を中心とした産業」とあるが、林業などの他の産業にも対応している表現に変えた方がよい。(委員)
→ご指摘の通り修文する。(事務局)

- ・ P. 65: 「外国人、聴覚の弱い方等」となっており、多様な人々に多様な方法で伝えるという趣旨だと思うが、もっといろいろな方々に伝えるという文言に変えた方がよい。(委員)
→ITの分野は10年で大きく進歩しており、現在の状況を把握して、全体的に見直しをする。(事務局)

- ・ 近年の洪水災害で亡くなる方の多くは交通事故である。洪水により橋や道路が無くなっているところで被害にあう。水や気象に係わって起きる災害という意味では、このようなことが書かれていないのではないか。(委員長)

- ・ 北海道が管理する富良野川の堆積問題の記載はあるが、富良野川上流には十勝岳があり火山噴火による泥流被害が発生する。火山に関しての記載が分散しすぎて、重要な問題であるという認識が持っていない。この流域特有の問題として、いつ噴火してもおかしくはな

い十勝岳の火山噴火への対応に対してももう少し記載があってもよいのではないか。(委員長)

- ・最初に河川の整備計画を見たときは、流域のことが中心に書かれていると感じたが、今回の変更案を見ると、海側からの視点が反映されている。海側にとっては河川が重要で、森の栄養を運ぶことや魚の移動などの自然に対してよい面もあれば、流木や土砂流出などで水産業などに影響が出る。それらのことに配慮した内容になっているのがよい。(委員)
- ・河川が氾濫すると、水産業などの沿岸の活動だけではなく、陸域の物流なども影響を受けるが、これらのことにも配慮された内容である。(委員)
- ・沿岸と流域も含めた河川の重要性だとか、安全な河川に整備するということが沿岸や陸域の活動に大事であるということを、教育で積極的に進めてほしい。(委員)
- ・今回の整備計画変更における変更点を整理しておくことは、どのような考えで流域の整備が進んできたのかを把握することができ、非常に重要である。(委員)
→参考資料として記録に残し、ホームページで公表するなど、方法を検討する。(事務局)
→「平成 28 年出水を契機に整備計画の改訂」など改訂経緯がわかるよう主な改訂を盛り込んだものを検討する。(事務局)

(2) その他

- ・本日いただいたご意見は、急ぎ修正できるものは修正して原案とさせていただきます、1 月 30 日から縦覧の開始を予定している。
- ・2 月 6、7、8 日に南富良野町、富良野市、赤平市で住民説明会を予定している。
- ・原案から案とし、次回の委員会でお示しする。(事務局)